

■就任のご挨拶

土木会会員の皆様方には、お元気で活躍のことと存じます。平素は、土木会の活動にご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

一昨年六月の土木会総会において、副会長に選任され、身の引きしまる思いであります。一言就任のご挨拶を申すところですが、なにせ随分時が経っておりますので、少し雑感を述べさせて頂き、就任の挨拶に代えたいと存じます。

■世相の変化と仕事

さて、各地で様々な職について現役として活躍している本会員の皆様も、第一線を退き第二の人生を有意義に送っている皆様も、日本の大きな世相の変化や出来事のもと、それぞれ、貴重な仕事を体験されてきたと思います。

私が入学したのは昭和四十一年。まさしく日本はオリンピック景気、いざなぎ景気、そしてこれらに続く日本列島改造プログラムに湧いていた頃です。昭和四五年に卒業し、昭和四八年の石油ショック、その後の低成長長期、昭和の終りから平成にかけてのバブル景気、そしてバブルの崩壊、阪神・淡路大震災等々、退職後には世界の金融危機、不況といった山あり谷ありの世相、出来事を経験してきました。私と同世代、団塊の世代の皆さんが経験された仕事にも、これらの時代背景、出来事が反映していたのではないかと存じます。

世代を超えた会員間の情報交換

水谷 昌弘（土木会副会長 昭四一）

日本ダクタイル鉄管協会 関西支部

■阪神・淡路大震災と水道

ところで、今年の一月の初め、年始挨拶の機会をとらえて、神戸市庁舎の南にある阪神・淡路大震災の犠牲者の名前を刻む「慰霊と復興のモニュメント」を訪ねました。数組の人が手を合せたり、献花されておりました。

私は水道事業に長年携わってききましたが、仕事上での大きな出来事の一つは、我々水道界を根底から震撼させたあの阪神・淡路大震災です。飲み水はもちろん消火栓から水が出ない光景が脳裏に浮かび、水道施設の耐震化、震災対策の重要性を改めて認識しました。

■耐震化への全国的な取り組み

国、日本水道協会、全国の水道事業者等では、被災直後から今日に至るまで、水道施設の耐震化と震災対策に関する数々の取り組みを行ってきました。

ここ一年間の取り組みを見ても、厚生労働省では、昨年の三月に水道施設の技術的基準を定める省令の一部改正が行われ、導・送・配水本管など基幹管路については耐震管を使用すること等が定められました。さらに、省令改正直後の昨年四月には厚生労働省水道課長通知として、全国の水道事業者に「水道施設の耐震化の計画的な実施」を求めました。

また、同じく、厚生労働省では、平成十六年に策定された水道のあるべき姿を示した「水道ビジョン」の改訂版を昨年の七月に公表し、水道施設の耐震化に

対する取り組みをさらに強化しました。

一方、日本水道協会では阪神・淡路大震災を契機に改訂された「水道施設耐震工法指針・解説」の充実を図るため、改訂特別委員会が設置され、本年三月に本編が、六月に資料編が発刊される予定で作業が進められています。

土木屋のバイブルとも言える「道路橋示方書・同解説」は、阪神・淡路大震災の後、全面改訂され、平成十四年には仕様規程から性能規程へ移行しました。同窓の皆様もそれぞれの分野でソフト、ハード面での耐震化、震災対策に取り組まれていると存じます。我々、土木屋を始めとして技術屋が震撼したあの阪神・淡路大震災は、今後、何年経っても様々な分野で技術を担当する人たちに語り継がれていくと思います。

■世代を超えた情報交換

同窓会では、どちらかと言うと世代が離れるに従い共通の話題も少なくなりつつありますが、色んな分野の耐震化とか震災対策に関する話は世代を超えた共通の話題だと思えます。大きな世相の変化や出来事を経験してきた本会員の皆様は土木会総会等に是非お越し頂き、話題の一つとして耐震化、震災対策について、世代を超えて、情報交換、意見交換をしようではありませんか。

最後になりますが、お忙しい中、市大土木会運営の実務をされている諸氏に感謝申し上げますとともに本会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

大学の近況

主任報告

大内 一(昭四六)

昨春秋以来経済不安が高まっています。が、「変」の時代にあっても卒業生の皆さんはお元気で活躍のことと存じます。角野主任は特命副学長就任など公務多忙により代理報告させていただきます。

まずは、都市基盤工学科の近況です。我が国橋梁工学分野の指導者として長年活躍された北田俊行教授が本年三月末をもって定年退職されました。そして、四月からは山口隆司准教授が後任教授に就任されました。研究科レベルにまで目を上げますと、日野泰雄教授が四月より副研究科長として研究科の運営に尽力されています。学科として、また専攻としても喜ばしい限りです。一方、海外交流に目を転じると、松村政秀講師が昨年十一月末より本年八月までの予定でイタリアのパビア工科大学に長期出張中です。その他それぞれの研究分野で米国、中国、台湾、韓国など諸外国との国際交流に努めております。

■本年四月より「都市学科」

昨年もお知らせしましたが、学部再編によって、本年四月より「都市学科」として50名定員の新一回生を迎えることとなります。実社会への就業に向け、教育の内容や仕組みは今後も進歩発展させて参ります。卒業後の人的ネットワークが重要ですので、同窓会のあり方を含めご協力ご支援をお願いいたします。

■進路・就職状況

進学・就職状況ですが、四回生については、進学18名(京都大学および大阪府立大学への計2名を含む)、旧公団・鉄道2名、民間8名(うち建設関係2名)です。本学科関連の都市系専攻前期博士課程修了予定者の内定状況ですが、公務員2名、旧公団・鉄道7名、民間13名(うち建設関係10名)です。なお、幸いなことに、内定取り消し例はありません。

■大学運営・研究・教育体制

長年企業務めの後、大学に迎えて頂いた者として、最後に印象を少し。
 「大学運営」：部局間自治が強、構成する教員の独立性が強い。その結果、トップダウンが難しく運営がスロー。オリジナリティを生み出す半面で、組織の改革・革新は遅い。
 「研究体制」：人員削減の中、旧帝大をモデルにするか、独自の体制を目指すか、その具体をどうするかが喫緊の課題。個が活かされる仕組みと意識変化が重要か。
 「教育」：学生人気獲得のための某私大的な経営取り組みは本学に合わない。誇れるものは少人数教育。恩恵を受ける現学生や20〜30歳代OBの世間への発信が重要か。母校の将来のため、今後とも協力ご支援いただけると幸いです。

誰にもまねの出来ない個人的な人生を送られた中井先生

中井博先生は、昭和10(一九三三)年12月14日茨城県生まれです。昭和10年は猪年で、12月14日は赤穂浪士の討入りの日です。典型的な血液型Bの中井先生らしい誕生日です。昭和34年3月大阪府立大学工学部を卒業、昭和36年3月同大学院工学研究科を修了し、大阪市立大学助手、講師、および助教授を経て昭和48年10月同大学教授に就任、平成11年3月同大学を定年退職、平成11年4月大阪市立大学名誉教授にられました。退職関連行事の最終講義の日も、中井先生らしく、天気は、雨や雪でなく、大きな雹が降ってきました。その後、同年4月福井工業大学教授に就任、同大学に8年間勤務され、平成19年3月福井工業大学も退職されました。少しはゆつくりとされておられましたが、平成21年1月に急逝、満73歳の人生を終えられました。その後、亡くなられた平成21年1月26日付けで、内閣総理大臣および内閣府賞勲局長より瑞寶中綬章を授与され、内閣総理大臣より正四位に叙せられました。今後は、名前の後に朝臣を付けて、正四位中井博朝臣とお呼びすることになるそうです。正四位に叙された人の中には、有名な坂本竜馬がいます。

中井先生が大阪市立大学を卒業、大学院に進学、最後に大学に残られた経緯は平成元年4月5日の橋梁新聞・リレー橋友録「私の橋梁書、停電のなかでの勉強、中井博」を参考にしてください。

中井先生の研究の指導教員は、この橋梁工学研究室に助教授までおられ、その後、昭和40(一九六五)年に大阪大学に移られた小松定夫先生です。小松先生は、中井先生の紹介で、私の研究指導教授でもありました。この研究室の初代の教授は、橋善雄先生(血液型AB)です。橋善雄先生の次が中井先生(血液型B)、その次が私(血液型A)、さらに私の定年後、平成21年4月からの山口隆司先生(血液型A)へと引き継がれていきます。この研究室は、鋼・合成橋梁という面で、戦後、ドイツから近代鋼橋の技術が入り、それを育て、引き継いで、今日に至っている、わが国では珍しい伝統のある研究室です。橋先生は、ドイツから連続合成桁橋の技術を受け入れ、クリップの計算に関して、橋の解法というわが国独自の方法を開発され、さらにプレストレスしない連続合成桁橋を開発されました。中井先生は、曲線桁橋の研究を大阪で始められ、曲線桁橋の中井の名は、わが国、さらには世界へと知れわたりました。北田は、補剛板の座屈耐荷力プログラムを作成して、圧縮力を受ける補剛板の弾塑性有限変位挙動の世界で最初のFEM解を得ております。

中井先生は、研究以外に日常生活の中からも法則を見出す天才でした。少し例を上げると以下のものがあります。

- ① 昭和20年生まれの市大の先生(例えば私)は平成20年度の終わり、すなわち20に1を足した平成21年3月に定年退職する。
- ② 両開き扉は、鍵がついている側の扉

追悼： 中井博先生

橋梁工学研究室

客員教授 北田俊行

③ 大阪駅前第3ビルの大阪市立大学・文化交流センターに行くときは、杉本町駅で一番後ろに乗る。

このような習慣は、日常生活でも便利で効率が良いが、研究者としては、絶対に必要な能力でもあります。中井先生は、文章でも、自分のルールを決められていて、それを守られました。例えば、1つの文の中で「は」は、1つにするなどです。また、中井のバナナの理論というのがあります。沢山の房のあるバナナから、美味しい房を見つける方法です。中井の理論の答えは簡単です。まず1本をとり食べてまずかつたから、それを捨てて次の1本を取るという方法です。ゆっくり考えていると、先に中井先生に取られ、結局、まずいバナナを食べることになります。まず、やってみるとこの方法は、その応用編がいろいろあります。例えば、私が市大に帰ってきてきて間もない頃、古い金庫が研究室あり、その鍵の開け方が分からず誰も開けることが出来ませんでした。開かない金庫なら捨てようかと、わいわい言っていると、中井先生が出てこられて、「どけ！」と言われ、金庫の前で、鍵のダイヤルを右に左に、左に右にといじっておられました。そのうちに「そら、空いた！」と言われました。これには、みな驚くばかりでした。

作曲・新井満、英文作詞不詳・日本語詞・新井満の「千の風」という歌があります。

歌詞の中に、「私のお墓の前で泣かないでください。そこに私はいません。眠ってなにかいけません。」というのがあります。中井先生も、きっと、天国で、中井先生の一番弟子であり、平成19（二〇〇七）年11月に若くしてあの世に行かれた元・大同工業大学教授・事口寿男先生とお酒を飲んではやかましく騒いで、あの世の代表者（神

様？）に、「静かにしろ！ここをどこだと思っているのだ！」と、怒られておられることでしょう。

最後に、大阪市立大学の伝統のある橋梁工学研究室の教授のバトンには、中井先生から受け継いだ私が、しっかりと次の山口先生に引き渡すことができたことをお伝えして、この追悼文を終わります。（平成21年3月記）

イベント開催報告 第19回市土会 ゴルフコンペ

第19回の市土会ゴルフコンペが、平成20年5月24日（土）、ディアパークゴルフクラブ（奈良県）で開催されました。

芦田会長以下19名の参加者が、この時ばかりは日常の仕事・生活を忘れ、同窓生・旧友と楽しくプレイと親睦を図る事ができました。スタートからの曇天が最終組のホールアウトと同時に豪雨となるラッキーな天候でした。

熱戦の結果、手戸彰禧氏（S42）がG88・N71.2で優勝されました。ベスグロ賞は辻江賢治氏（S48）がG86で獲得されました。また、脇田武利氏（S48）に特別賞が贈呈されました。

この会も建設業の現状を反映して年々高齢化しています。平成の卒業生の参加が増えることを期待しています。今回もアベレージ一〇二、最高一三〇と決してゴルフの達人の集まりではありません。同窓生の親睦を図る事が目的となっています。今後、初心者の方、同級生同士、職場同士の参加を大歓迎しています。参加に興味のある方は事務局又は幹事までご連絡下さい。幹事・住吉（S46）・岡田（S60）・吉田（S62）



イベント開催報告 第23回 東京支部総会

恒例の大阪市立大学土木会東京支部総会が平成20年11月18日（火）に東京日本橋の「サリュコパン」で開催されました。東京支部総会は、平成3年以来、毎年、土木の日（11月18日）に開催しております。今年も、大学から大内教授に御臨席いただき、21名の出席がありました。笠木利勝東京支部長（S42）の挨拶で始まり、大内教授から大学をとりまく近況をお話

し頂いた後、佐伯様（S40）の乾杯で懇親や情報交換などが始まりました。そして、中村龍由幹事（S60）からの会計報告などの後、村上様（S43）の手締めで閉会となりました。

残念なことに、参加者が年々減少傾向にあり、東京支部総会開催の工夫等が必要であります。より有意義な東京支部総会を開催し、参加者の増員を図りたいと考えますので、皆様のご指導、ご鞭撻をお願いしたいと思っております。

なお、平成21年も、「土木の日」（11月18日（水））に開催の予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。（幹事：今井一彦（S54））



H19年度 土木学会 国際活動奨励賞受賞

山本茂治（昭五六）



昨年「平成19年度土木学会国際活動奨励賞」を受賞させて頂き、その縁で今回の寄稿を依頼されました。私事で恐縮ですが卒業後の生活などを報告します。

まず、昭和56年の卒業（橋梁研）にあたっては、卒論などを御指導していただいた北田先生をはじめ中井先生や当時在籍しておられた酒造先生には色々とお世話になりました。卒業後全然研究室に挨拶もせず、又お土産も持っていらず申し訳ありません。尚、中井先生が1月28日にお亡くなりになったとの連絡を受けました。まさにこの文章を書いている最中のことであり大変驚いています。ここに中井先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

さて、前田建設工業というゼネコンに採用され、卒業後3年半程東京本社にて勤務しておりました。昭和58年頃市大土木会東京支部に参加し、当時の国鉄に勤めておられていた草木陽一さんや藤田昌弘さんたちの名刺をいまだに持っています。ただ、こちらへもその後転勤の挨拶も満足にできず大変失礼してしまいました。

昭和59年10月より香港赴任になりました。当時独身ですし海外勤務を断る理由はありません。上司の3年ぐらいたの甘い言葉にもだまされ意気揚々と飛行機に乗らせて頂きました。赴任先の現場は海峡を横断するコンクリ

ート橋（中央径間160m）の建設工事で、海工事から舗装工事まで、そして広東語、英語、BS規格、クレーム闘争などまでも一通り経験。香港には「有恒会」という市大OB会があり、主に商学部卒業（さすが旧三商大という感じですが）の銀行系／証券系の会社に勤めておられる方が運営しておられ、数回飲み会に参加させていたいただきました。

その後、昭和63年夏頃から香港に近い中国領内での原発の現場に転勤。その施工途中、北京で天安門事件が起こり、その首謀者が南へ逃走しているとの情報で香港との国境が閉じられ一時出るに出来なくなりましたが、工事は粛々と進められ後に当時の李鵬首相より感謝状。その他、原発完成間近になり中国公安当局の現場警備員が、機関銃を装備したことに驚きました。工事用ゲートで、警備員の指示に従わない者はいなくなった記憶があります。

その後、又香港へ転勤し無事日本人女性と結婚。平成4年から斜張橋（中央径間430m）建設現場へ。設計施工工事で契約的にも苦労しましたが、なんとか香港の中国返還式には間に合わせる事ができたという感じ。現場にはチャールズ皇太子やサッチャー首相もみえ露払いの役目担当。又、人民解放軍の香港進駐はなかなか迫力がありました。

平成10年からは約6年半タイ国のバンコクへ転勤。当初地下鉄操車場（人工地盤約22万㎡）建設工事へ参加し、竣工後タイ国での入札業務に携わりました。バンコクにも市大OB会があり、数回ゴルフや飲み会に参加させていただいた。こちらの会も主に商学部卒業の方が運営されておられ、タイ国に永住して事業を行っている方も多かった。タイは微笑みの国と言われるが、子育ての国でもある。物価が安く日本人社会も大きく、買い物など生活し易い面もあるが、当時は治安も良く、又医療施設が整っており、日本で学んだ日本語がしゃべれる医者や看護師も多く家族も安心して暮らせた。昨今の政治的混乱を見るのは、大変残念である。

平成16年からは又々香港へ転勤し、また斜張橋（中央径間1,018m）建設現場へ。技術的にも難しい工

であり最初の杭工事から設計通りに行かない。ほぼ同時に施工が始まった上海の斜張橋が先に開通し世界一の称号をさらわれた事が残念。欧米式契約に縛られている工事は発注者も口が出しづらく、時に誰も工事を前に進めようとしないう事が多いのが香港での公共工事の玉に瑕である。

現在まだ香港勤務を継続しており、昭和59年の最初の海外赴任の時に3年ぐらいたの甘い言葉にだまされてからはや24年。土木学会に誇れる活動をしてきた訳ではないが、ひよんな事から国際活動奨励賞をいただき大変名誉な事と思っています。ただ、昨年喉頭癌に罹ってしまった外科手術をして身体障害者になってしまった。これら一つの運命かと開き直り60歳での第1次定年までの今後10年、身体・家族・会社の許しがもたらえる限りできれば現状を継続したく考えている。ただ、海外にいるとなかなか同窓会へも出席できず残念。是非連絡乞う。

(yamamoto@maeda.com.hk)

表彰状

山本茂治殿

貴殿は多年にわたり海外工事の施工に携わり建設廃棄物の現場からの排出を抑制する環境保全システムを展開するなど社会基盤整備に大きく貢献されました。ここにその功績を讃え平成十九年度土木学会国際活動奨励賞を贈ります。

平成二十年五月三十日



【国際活動奨励賞とは？】海外における土木工学の進歩発展あるいは社会資本の整備において、現地国での土木技術の発展に独創性をもって寄与し、国際貢献への活動が今後とも期待される日本人技術者に送られる賞。

寄稿

『卒業から五〇年を顧みて』

宮村善保(昭三三)

昭和三十三年(一九五八)に同期卒業生二二人、二十四の瞳が社会人としてスタートしました。卒業以来、五八「ウーパ―会」と名付けて交歓し連帯を維持して五〇年を経ました。卒業して二十五周年に恩師の先生方を有馬温泉に招待して謝恩の会を催しました。当時は岡部先生をはじめ多くの先生がお元気でした。私たちも未だ薄給であり負担が大きいため一年後輩の三十四年次卒業生と合同で開催することとしました。その後三十周年を大野屋で開催し、それ以後の節目の懇親会は合同で行うことが通例となっていました。五〇年の記念懇親会も合同で実施する予定でしたが、残念ながら五八会が単独で催すことになり、二〇〇八年四月に大阪ヒルトンプラザ「聘珍楼」で旧交を温めました。

恩師の三笠正人先生にご臨席いただき、在学当時と変わらぬ熱気溢れる業績を承りました。すでに八〇歳になられたにもかかわらず矍鑠とされた姿には敬服しました。

在学中のコンパでは「市大出てから一五年、今じゃ〇〇の△△で、集まる××が五〇〇〇人・・・」と決って奮声を張り上げて謳歌したものです。

現役生活を退き「市大出てから五〇年、今じゃ川柳のネタになり」の現在生活を披露し合い、昔話に花が咲いた束

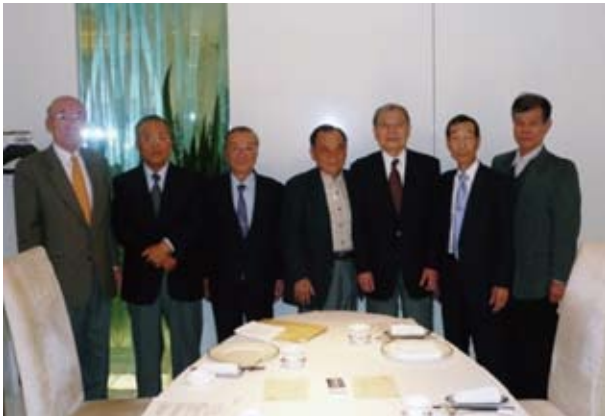
の間の四時間でした。

私たちが卒業した当時の日本経済は戦後の復興が一段落し、漸く成長段階に入った時でした。昭和三十四年の所得倍増計画以降は高度成長を続け、バブル経済に至る時代背景で仕事に追われながらも楽しい現役生活を送りました。その後、バブル経済の崩壊とともに高齢者の仲間入りをして、趣味悠々の充実した生活と健康維持に努めています。その間での人生体験は各人各様ですが、その一端を紹介します。(アイウエオ順と欠席者のコメントから)



恩師の三笠正人先生

「ウーパ―会」に参加したメンバー



上野清孝君：鹿島建設(株)に入社。東北地方での勤務の後、倉敷市のコンビナート工事に一五年間、従事した。海外勤務ではイラン革命やイ・イ戦争に遭遇。

定年後は中央大学の通信教育で法学士の学位を得、努力賞の時計を授与された。

川原忠司君：世紀東急工業(株)で道路舗装一筋の半世紀を送った。その間に現場技術の改良や環境問題等の新しい課題解決に知恵と汗で先駆的活躍をした。本社では品質管理を担当。

北村章君：日本国有鉄道に就職。鉄道建設公団、東急建設(株)で活躍した。鉄道線路の計画、設計、施工に携わり、親不知トンネル、青函トンネルで直轄工事も経験した。青函トンネル工事に一〇年間係わり、局長時に出水事故があつたが、アメリカ土木学会の論文賞、天皇賜杯を授かった。

塩崎信雄君：関西電力株式会社に入社し黒四ダムで六年間、その後も主に発電所関係の仕事に従事した。

高瀬宏直君：近畿日本鉄道(株)から教職に転じ、国立明石高専で教鞭をとり、現在は名誉教授である。退官後は、文化活動に精を出し、「私と鉄道とのかかわりや思い出」を執筆中。

藤井俊造君：鉄建建設(株)に入社。昭和四五年に大阪市地下鉄の天神橋駅工事中にガス爆発事故が発生し、責任技術者として事後処理に長期間苦労した。

宮村善保：建設省の技術官僚として勤務した後、オムロン(株)に再就職し異業種先端企業で常務取締役・顧問を歴任。退社後は生涯現役を目指してヴェンチャー企業建設コンサルタントを起業した。

田中務君：「日綿」に入社し、繊維商社の総合商社化に貢献した。東南アジアで機械関係の仕事を経験し、帰国後は自動車関係の事業拡大や金属、建設、エネルギー部門を歴任し、常務取締役・顧問を務めた。

河合浩君：奈良県職員として活躍した。パーキンソン病のため行動が不自由とのことである。

井口久治君：五洋建設(株)で活躍し、現在は魚釣りなどを楽しむ隠居生活に徹している様子。

昨年は三十四年卒業の田中猛君、今年一月に中井博君の訃報に接した。中井君は同期入学で三回生まで共に学び遊んだ仲間であった。五八会にも参加し大いに飲み駄弁った。ご冥福を祈る。

連載企画 『10年ひと昔で強める同期の絆』

10年ひと昔 長いようで過ぎてみると短い 外面の変化は
 隠しようがないけど、心根は卒業の時のまま その積み重ねで気がつけば〇年
 そんな区切りの年を迎えられた学年の同窓会の様子を語っていただきます
 毎年区切りの年があります 次はあなたの学年ですよ

朋友・田中望を偲ぶ

茨田 隆澄(昭三四)

34年卒の我々は今年で丁度50年を迎える。古希を過ぎてても全員が元気に人生街道を闊歩していた。しかし、一昨年の暮れに田中がガンの手術をするという連絡が入った。つい最近彼が東京に出てきた時に飲み明かしたところだったので、ガンが早期に見つかってよかったと思っていたが、昨年1月に手術したところ、方々に転移していて大手術だったとのこと。だがこれも手術により元気を取り戻し、6月には上京し拙宅に泊まり回復を祝して飲み明かした。しかし8月に入った知らせでは、「ガンが再発し、手術は不可能で後・ヶ月の命だ。」というところで、驚いたというよりも呆然として何も考えられなかった。自分の寿命を知った彼は、無駄な治療を止めてホスピスに入り、淡々と自分の後始末、家族への心遣い、そして自分の葬式の段取りまでつけて11月末に他界した。

思えば大学の3年生になってからの付き合いであるが、顔はあまり似ているとは思えないのに、体格が似ていたのか、行動が似ていたのか何時も先生から「田中と茨田」とセットで呼ばれていた。学生時代に一緒によく山に行ったこと、自転車旅行(サイクリング)をしたこと、酒もよく飲んだ。そして最後は教室主任の先生の意向に逆らって、卒業設計以外に堺の埋立地の急速圧密の実験の手伝

いをしたことなど思いでは数え切れない。勤めてからも何度も飲んだ。お互いに職場での立場や地位は当然解かっていたので、仕事の話は一度もしたことは無かった。彼は船を持っていたので、彼の家に泊まり、明石の蛸も釣りに連れて行ってもらった。

先に黄泉の国に行ってしまったが、針の山の登山や血の海での釣りでも楽しみながら待っていてくれ。

後30年もしたら私もそこへ必ず行く。そこでまた楽しくやろう。合掌

10年ひと昔で

強める同期の絆

表 源太郎(昭四三)

私達、昭和43年卒のメンバーは橋梁研の北田先生の提案で、「三金会」と称して、2月と8月の第3金曜日に大阪駅前第二ビルにある市大の文化交流センターに集合しようとしています。

10年前に30周年の同窓会を開催しようとしても、皆さん第一線で活躍中のため、なかなか集まることになかったものです。

40年を迎えるにいたって、多くのメンバーは第一線を退き、第二の人生を謳歌しているところですが、「三金会」には遠路、東京や岡山からも都合をつけて来るメンバーもあり、関西在住の常連さんも含めて常に5名から10名は集まり、年に2回の集まりを楽しんでいます。

毎回、集まったら、昔は梅田新地あたりを闊歩していた連中が、駅前第二ビル界隈の安い居酒屋でひと時、昔話に話を弾ませています。

第一線を退くと、人間また視点が変わってくるもので、甲側にいた人も乙側にいた人もお互いに肩肘張った関係がなくなり、世の中を違った視点から語ることが出来るものです。

いろんな情報交換もしていますが、話題はもっぱら世間話を中心で、いい業があるとか、いい医者を知っているとかがいとうとすぐに話題の中心になれるという。やはり皆さん歳をとったのでしょいか。

帰りには必ずゴルフの約束が一つ二つ成立していきます。

残された人生をより豊かに過ごせるように、「三金会」が末永く続くことを願っています。

土木屋魂ここにあり!

折口 清秀(昭五三)

3月8日(日)、土木工学科昭和53年卒業の同窓会を開催しました。

我々は、卒業後間もなく31年になります。その声を聞く前に、卒業30年記念の同窓会をやるとういうことで、鹿島の大島君から声がかかりました。

実は10年前、卒業20年記念の同窓会も彼からの発信で実現しました。

あの時は、琵琶湖の畔のホテルに泊まって、飲んだり食べたり喋ったりと、時



間の経つのも忘れて、交流を深めたことが思い出されます。
 今年は、一泊というパワーも無くなり、ホテルで昼食というパターンになりました。
 53歳から57歳の卒業生が14名集まり、恩師の先生方が8名参加して頂きました。中でも、最長老は三笠先生で、83歳とのこと、我々より30歳上というところで、先生のスピーチの中で、「皆さんが学生の頃は、ちょうど私も今の皆さんの年で、あれから30年頑張ってきた。皆さんもこれから30年頑張らんといいませんよ。」と叱咤激励され、非常に大きな勇気をもたらえたような気がしたのは私だけではなかったのではないのでしょうか？

これからは、5年毎に同窓会を開催しようということで、みんなが『土木屋魂』を胸に抱いて頑張ることを誓い合って、強い絆ができたような気がしました。ただ、我々が入学したときの40名のうち30名が第一志望、建築工学科だったという話を聞いて少々ガツカリしてしまいました。(私は第一志望、土木工学科でした。)

昭和50年卒30(33)年会

大西 耕二(昭五〇)

昭和50年卒の同窓会を平成20年9月26日(金)、大阪天神橋のたもとにあるフランス料理レストラン「ルポンドシエル」で13年ぶりに行いました。卒後33年という節目にしては少し無理のある開催でしたが、久しぶりの再会に会場は大いに盛り上がりました。

前回の同窓会は平成7年、阪神淡路大地震の年に宝塚で卒後20年会を行いました。まだ復興の槌音が響く6月、被災した人や、復興支援の業務に携わる同級生も多かったのですが、厳しい状況の中での開催でした。

それから10年後に卒後30年の開催を予定していましたが、その年の平成17年に元交通工学研究室の西村先生、構造工学研究室の小林先生が相次いでお亡くなりになられたことから、開催を延期させていただきました。

昭和50年は38名の卒業者がいましたが、遠方からの参加者を含め16人が集まりました。それにもまして、なんと8名の恩師の先生方にご参加いただきました。先生方にはお忙しい中、駆けつけていただきありがとうございます。この紙面をお借りして御礼申し上げます。まさに学生時代と同様に、ほぼマンツーマンで先生方のご指導、ご鞭撻をいただくことができました。

先生方のご挨拶の中で、昭和45〜46年の入学当時の大学の状況を感慨深く話していただきました。学園紛争のなかでの授業、あるいはピケで授業ができなかったこと、十分な教育環境になかったとお詫びをいただきましたが、血気盛んな20歳前の我々も、その渦中で少なからず授業を妨害していたことを、今更ながら複雑な心境で聞かせていただきました。

土木業界が、近年の大きな変化の中で、先行きの明るさが見えにくくなっていくだけでなく、サブプライムローンの破綻に端を発した世界的な経済危機の中ではありましたが、しばし美味なフランス料理に舌鼓を打ち、懐かしい話に花を咲かせました。

二次会の会場には、同級生が経営するソフトハウスの事務所を開放していただきました。缶ビールや一升瓶の酒と乾き物での宴会でしたが、学生時代を思い出すには十分な演出で、大いに盛り上がりしました。16人全員が参加し、話も聞きながら、次回の開催を心待ちにお聞きしました。

先生方をはじめ参加していただきました

した方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございます。



中之島線の建設を通じて

谷口 智之(平四)

卒業後、京阪電鉄に入社して以来、いくつかのプロジェクトに参画しましたが、中でも大きなプロジェクトである中之島線の、都市計画決定をはじめ鉄道事業法上の認可等の手続きから建設工事・開業に至るまで担当させていただきました

ました。お蔭様で、平成20年10月19日に無事開業させていただき、その後順調に運行させていただいております。これも、学識経験者の皆様、行政の皆様、ゼネコンやコンサルをはじめとする技術関係の皆様にお世話になったお陰と存じます。その中でも、このプロジェクトおよび周辺業務を通じ多くの市大卒の方々とご一緒させていただけたこと、そして多大なるご指導をいただけたことを深く感謝している次第でございます。

中之島線の建設にあたっては、技術面として大阪西部の軟弱地盤・開削での深い掘削・シールドによる地下鉄下越し・在来地下躯体のアンダーピーニング等、難題を多く抱えておりましたが、何とかクリアすることができました。さらに、本工事では都心部の水辺、公園等の貴重な公共空間を占用するものであるため、現場周辺の「まち」や、そこに活動する人々に対し、ソフト面でも工夫した工事の進め方を心掛けました。具体的には、イメージアップ戦略と題し、「人と工事現場を遮るのではなく融合させる」という方針の下に、「見る・見られる」という市民協力・参加型の新たな工事スタイルを追求し、現場の柵の工夫・情報提供としてインフォメーションセンターの開設・工事現場見学会の開催・仮設遊歩道や工所用重機へのイルミネーションの設置等、様々な演出を実施しました。

このようにして完成した中之島線が起爆剤となり、中之島エリアがさらに水都大阪の象徴として再生し、大阪のみならず関西経済の活性化に繋がることを願っております。

幹事長から一言

幹事長 日野 泰雄

平成21年度より都市学科がスタートしました。さて、同窓会はどうなるのか？これまで倉田会長ともども環境都市工学科同窓会小田会長・貫上幹事長と打合せを重ね、早急に都市学科同窓会（仮称）の設立と土木会及び環境都市同窓会の関わり方について検討することで合意し、すでに、新入生歓迎会では両会長が挨拶するとともに、土木会から金銭的補助も行いました。両同窓会会員にとって好ましい方向で答えが見いだせることを期待しています。

本年3月に北田先生が定年退職されたところですが、これからしばらくの間、定年を迎えられる先生方が続きます。来年3月には角野先生、再来年3月には大内先生と東田先生が退職される予定です。国立大学では定年延長が取り沙汰されていきますが・・・

私事ですが、本年4月より副研究科長を拝命し、研究科長及び研究科評議員の3名で工学部・工学研究科の懸案事項に取り組んでいます。そこで、ちよつと勇み足になりますが、幹事長職を後任に譲るべくお願いしています。今年度の総会にて、皆様のご承認をいただければ、新しいスタッフで、新同窓会のあり方を検討するとともに、在学生への支援並びに会員の皆様への一層のサービスの取り組みんでいただけるものと確信しています。よろしくお願ひします。

事務局よりお知らせ

事務局長 田中 正治

お願ひ

勤務先・自宅等を変更された方にお願ひがあります。毎年、土木会事務局から総会案内・土木会通信を郵送していますが、住所変更手続きがされていないため宛名不在で返送されるケースが多発しています。変更のあった場合は事務局まで連絡（電話・ファックス・メール）していただくか、各人で土木会のホームページの個人情報を変更していただくかどうかでも結構ですので、是非変更方お願ひいたします。また年度初めに請求しております会費は滞納されないよう、なるべく早い目にお振込みください。

ホームページ等の更新状況

事務局では、昨年度に発生した会費請求に関するトラブル防止や、平成に卒業された方がスムーズに名簿情報を更新できるように、対応を進めています。

ホームページの掲載情報については、一つの記事につき、概ね100件前後のアクセスがあり、今後もコンテンツの充実を図っていきたいと思います。より幅広い世代から、近況をご報告いただける、活性化するのではないかと思いますので、自薦、他薦を問わず、事務局までご連絡ください。とくに、海外に勤務されている方には、HPを通じて旧友と情報交換されてはいかがでしょうか？

第24回大阪市立大学土木会東京支部 総会開催のお知らせ

平成21年度の第24回東京支部総会は、11月18日（水）の「土木の日」に開催の予定です。関東地区にご在住の方、また、出張等で東京においでの方は、ぜひご参加ください。なお、転勤等で関東地区に異動になられた方は、東京支部幹事までご連絡ください。

幹事：今井一彦（昭和五四）
（株）建設技術研究所 東京本社
E-mail : kz-imai@ctie.co.jp

平成21年度土木会総会・懇親会開催のお知らせ

平成21年度の土木会総会・評議員会・懇親会を次の要領にて開催致したいと思ひます。会員各位におかれましてはご多忙とは存じますが、土木会発展と活性化のため多数の方々の参加をお願いいたします。

- (一) 日時 平成21年6月29日（月）
評議員会 18:00～18:30
総会 18:30～19:00
懇親会 19:00～21:00（会費 6,000円）

- (二) 場所 ホテル アウィーナ大阪
（評議員会、総会は「金剛（東の間）」、
懇親会は「金剛（中の間）」）

大阪市天王寺区石ヶ辻町 19-12 TEL : 06-6772-1441（最寄り駅：地下鉄 谷町線「谷九駅」または近鉄線「上本町駅」より徒歩8分）